

## 悪天候を免罪符にした米指標の弱さは今後どうなるか ～米コンファレンスボード消費者信頼感指数

2014年2月24日(月)

今月7日の米雇用統計以降、  
主な米国の経済指標は軒並み予想を下回る動きを見せています。  
これらの結果は基本的には寒波の影響といわれ、  
米景気回復期待に大きな悪影響とはなっていませんが、  
小売売上をはじめとした各種指標が軒並みの悪化を見せるなかで  
景気減速感への懸念がくすぶり続けるという状況になっています。

景気動向に対する先行性が高いといわれる景況感に関する調査(いずれも2月分)では  
14日のミシガン大学消費者信頼感指数が、  
1月と同水準の81.2に踏みとどまったものの  
フィラデルフィア連銀製造業景気指数が  
市場予想の+7.4を大きく下回り、  
-6.3と、2013年5月以来のマイナス圏になるなど  
大きな悪化を示すものが出ている状況です。  
今週は25日NY市場で  
これら景況感、消費者信頼感調査の中では比較的相場への影響力が高い  
コンファレンスボード消費者信頼感が発表される予定となっております  
注目が集まるところとなっています。

同指数は前回1月分の数字が80.7と  
昨年8月以来の高水準となり、  
米景気回復への楽観論につながりました。

構成項目のうち、先行きの期待を表す期待指数が81.8と  
12月の79.0から上昇しており  
先行き楽観論も目立つ展開になりました。

ただ、今回は80.0と前回水準からはやや下落する見込みです。  
もっとも、10-12月の水準からはまだ高水準であり、  
事前予想通りだとすると  
市場の楽観的な見方は健在という印象が強まりそうです。  
なお、景気回復への懸念がある中では  
弱めの数字にやや神経質になりがちにだけに  
予想を下回った場合には、相場の動きに相当注意が必要と思われる。

発表は日本時間で26日午前0時です。

その他材料としては  
数多く予定されている米要人発言に注目したいところです。

今週は27日に、従来13日に予定されていたものが大雪の影響で延期となった  
イエレンFRB議長の上院銀行委員会での議会証言が予定されているほか、  
26日にローゼンブレン・ボストン地区連銀総裁とピアナルト・クリーブランド地区連銀総裁  
27日にロックハート・アトランタ地区連銀総裁とジョージ・カンザスシティ地区連銀総裁  
28日にスタインFRB理事、コチャラコタ・ミネアポリス地区連銀総裁、  
エバンス・シカゴ地区連銀総裁、プロッサー・フィラデルフィア地区連銀総裁と  
要人発言が目白押しの一週となっています。  
現行の量的緩和縮小傾向は当面続くとみられ  
利上げも遠いという見方が一般的ですが  
先週発表されたFOMC議事録では、状況によっては年内の利上げを意識する発言が出ており  
こうしたFRB内の意見の相違状況が  
要人の講演などでどこまで表に出てくるのかなどに注目が集まります。

ちなみに、24日はグリーンズパン元FRB議長、25日にはラガルドIMF専務理事、  
28日にはカーニー英中銀総裁と黒田日銀総裁などが講演予定となっております  
要人発言には事欠かない週となりそうです。